平成28年度事業評価結果(課・室)総括表

会計区分　一般会計
課・室名　森づくり課
（単位：千円）

事業名	区分	経費区分	福井ふるさと元気宣言における位置付け	関連する県の計画等	事業区分			事業開始年度	経過年数	平成29年度予算額	財源内訳				評価に基づく今後の対応									
					実行予算	補助金	その他				国庫	起債	その他特定財源	一般	拡充	継続	整理統合	縮減	休止	廃止	終期の見直し	完了	その他	見直し額
もり人づくり事業	継続	政策的経費	「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ	ふくいの森林・林業基本計画	○			S39	54	6,622				6,622				○						△ 284
緑と花の県民運動大会運営事業	継続	政策的経費	国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に	ふくいの森林・林業基本計画	○		○	H22	8	115				115		○								
みどりと花の県民運動大会開催事業	継続	政策的経費	国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に	ふくいの森林・林業基本計画	○		○	H22	8	21,200				21,200		○								
素敵なガーデニングサポート事業	継続	政策的経費	国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に	ふくいの森林・林業基本計画	○			H22	8	865				865				○						△ 476
花いっぱい運動推進事業	拡充	政策的経費	国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に	ふくいの森林・林業基本計画	○			H22	8	22,359			500	21,859	○									
ふくいSatoyamaトレイル推進事業	継続	政策的経費	豊かな環境、すぐれた景観を次の世代に	ふくいの森林・林業基本計画	○			H27	3	592	296			296				○						△ 3,805
総合グリーンセンター緑と花の拠点施設機能強化事業	継続	政策的経費		ふくいの森林・林業基本計画	○			H26	4	971				971				○						△ 509
林業ビジネスの拠点整備（総合グリーンセンター機能強化事業）	新規	政策的経費	「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ	ふくいの森林・林業基本計画	○			H29	1	170,500	85,250	85,000		250										
山の恵み活用ビジネスモデル事業	新規	政策的経費		ふくいの森林・林業基本計画	○	○		H29	1	1,950	975			975										
ふるさと特用林産物再生事業	拡充	政策的経費		ふくいの森林・林業基本計画	○	○		H27	3	8,866				8,866	○									
鳥獣害のない里づくり推進事業	継続	政策的経費	「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ	ふくいの森林・林業基本計画		○		H26	4	13,000	13,000							○						△ 7,140
美しい森林景観再生事業	継続	政策的経費		ふくいの森林・林業基本計画		○		H19	11	18,650				18,650				○						△ 1
森林の安全点検・診断事業	新規	政策的経費		ふくいの森林・林業基本計画	○			H29	1	10,000				10,000										
					11	4	2			275,690	99,521	85,000	500	90,669	2	2		6						△ 12,215

もり人づくり事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	一部内	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

福井ふるさと元気宣言における位置付け	□ 政推枠　ビジョン〔　元気な産業　〕 政　策〔「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ〕	事業区分	□ 国庫 ■ 県単 □ その他	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	S39　年度 経過年数 54　年	事業終了予定年度	H31　年度
関連する県の計画等	〔　ふくいの森林・林業基本計画　〕							

［事業目的］

県民に対する森林・林業教育の推進を通じて、森林の有する多面的機能の高度発揮に必要な知識を備えた人材を育成し、多様で健全な森林の育成を促進する。

［事業内容］

森林林業体験（森林野外活動・林業体験学習等、木工教室）、現地体験会、リーダー研修（林業教室、次世代林業を担う小学生向け森林・林業体験プログラム）

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区　分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移	5,764	5,830	7,137	6,906	6,622	6,622	6,622	研修会開催経費の見直しによる減
２月現計予算額の推移	5,764	5,830	7,137	6,906				
決算額の推移	5,681	5,718	7,137					

［成果指標等の推移］

区　分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	林業教室参加者数	（目標）	(400)	(400)	(400)	(400)	(400)	(400)		県民に対する森林・林業教育の推進を通じて、持続的に森林の有する多面的機能を十全に発揮させていく。
		実績	589	562	658	580				
活動指標	林業教室開催数	（目標）	(20)	(20)	(20)	(20)	(20)	(20)		
		実績	20	20	19	19				

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	6,622				6,622	事業実施方法	直営
						補助率	―

事　業　評　価

<table>
<tr><td>事　　業　　名</td><td>もり人づくり事業</td><td>部局名</td><td>農林水産部</td><td>課名</td><td>森づくり課</td><td>課長名</td><td>牧野　康哉</td></tr>
<tr><td colspan="8">［事業の必要性・要求の背景］

　次世代の森林整備を担う人材の育成および確保が重要であることから、一般県民や児童を対象に各地域において野外学習や林業体験を実施し、森林の大切さや森林整備の重要性に対する理解の増進を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="4">［受益者］
　林業体験会、現地体験会、研修参加者</td><td colspan="4">［想定される受益者数］
３，５００名</td></tr>
<tr><td>他県の状況</td><td>・石川県
「森づくりボランティア推進事業」により、ボランティア団体等が森林に親しむための活動を実施する場合、補助を実施
（補助対象経費の10分の10以内、1団体あたり50万円限度）

・富山県
「とやまの森づくり普及啓発推進事業」により、県が養成した「フォレストリーダー」が、児童等広く一般県民に対し、森づくりに関する理解を深める出前講座や森林教室を実施</td><td colspan="2">前事業の有無・実績</td><td colspan="4">■　無
□　有　　　事業名
（実績）</td></tr>
<tr><td>関連事業の有無・役割分担</td><td>■　無
□　有　　　事業名
（役割分担）</td><td colspan="2">市町との連携状況</td><td colspan="4">　小学校と連絡調整を行う際に、各市町教育関係部局と連携し、事業を実施する。
　また、市の施設を活用し、森林林業教室を実施する。</td></tr>
<tr><td colspan="8">［事業の評価］</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>前年度の実績</th><th>実績を踏まえた２９年度の変更点</th><th colspan="4">事業評価</th></tr>
<tr><td rowspan="3">　様々な林業体験や研修を通して、自主的な林業活動に取り組むグループや指導的林業者が育成されている。
（Ｈ２８見込み）
森林林業体験会参加者　152回、5,239名
現地体験会参加者　　　　4回、　127名
ジュニアフォレストサポーター研修
　　　　　　　　　　参加者　　　46名、新規認定者　12名</td><td rowspan="3">　次世代の担い手となる小・中学生を中心に実施してきた研修について、実施内容をより実践的内容に変更し、林業後継者の育成を図る。
　研修会開催経費の見直しにより284千円減額する。</td><td>□　拡充</td><td>■　縮減</td><td>□　終期の見直し</td><td>見直し額</td></tr>
<tr><td>□　継続</td><td>□　休止</td><td>□　完了</td><td rowspan="2">△ 284</td></tr>
<tr><td>□　整理統合</td><td>□　廃止</td><td>□　その他</td></tr>
</table>

緑と花の県民運動運営事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	□ 政推枠 ビジョン〔 元気な県政 〕 政　策〔 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に〔 〕					事業区分	□ 国庫 ■ 県単 □ その他	■ 実行予算 □ 補助金 ■ その他	事業開始年度	H22 年度 経過年数 8 年	事業終了予定年度 H31 年度
関連する県の計画等	〔 ふくいの森林・林業基本計画 〕										

［事業目的］

平成２１年度に開催された第６０回全国植樹祭を契機として実施してきた県民運動を、一過性のものでなく永続的に実施できるよう、推進母体で施策を検討し、平成３０年の福井しあわせ元気国体・大会開催や北陸新幹線敦賀開業に向け、緑と花の県民運動をより一層推進する。

［事業内容］

○実行委員会の開催
　３つの県民運動（緑と花のふるさとをつくる運動、元気な森をつくる運動、自然を知り伝える運動）について、広く県民の参加が得られるための施策やイベント内容を、各種関係団体からなる実行委員会で検討する。

［予算額の推移等］　　（単位：千円）

区　分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移	227	227	119	115	115	115	115	
２月現計予算額の推移	227	227	119	115				
決算額の推移	199	224	68					

［成果指標等の推移］

区　分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	県民運動参加者数	(目標)		(50,000)	(52,000)	(54,000)	(56,000)	(58,000)	(60,000)	目標値 60,000人(H31)
		実績	49,150	51,207	52,892	54,000				
活動指標		(目標)								
		実績								

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	115				115	事業実施方法	直営
						補助率	―

事　業　評　価

事　　業　　名	緑と花の県民運動運営事業	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

平成21年度に開催した第60回全国植樹祭を契機に展開してきた「緑と花のふるさとをつくる運動」「元気な森をつくる運動」「自然を知り伝える運動」を一過性のものとして終わらせることなく、永続的な運動として展開していくため、緑と花の講習会やイベントを行うとともに、花や花木の植栽を通した美しい景観を形成する運動を支援する。

［受益者］	［想定される受益者数］
緑と花の県民運動参加者	６万人

他県の状況	過去の植樹祭開催県の植樹祭後の状況 【山口県(H24開催)】 ・地区毎に森林づくりの日を中心に森林に関するイベントを実施 ・森林・林業の職場体験など後継者育成を促進 【鳥取県(H25開催)】 ・「鳥取県植樹祭」を毎年開催 ・東北支援として森の里親プロジェクトでコナラを育成 【新潟県(H26開催)】 ・「緑の百年物語フェスティバル」を県緑推が開催 ・地域の育樹・植樹活動を支援	前事業の有無・実績	■ 無 □ 有　　　事業名 （実績）
関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有　　　事業名 （役割分担）	市町との連携状況	なし

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価			
緑と花の県民運動に、広く県民の参加が得られた。 （Ｈ２８見込み） 県民運動参加者数：54,000人	福井国体・大会や北陸新幹線敦賀開業に向け、県民の花づくり活動への機運向上を図るため、推進母体を「みどりと花の県民運動大会および第２３回全国花のまちづくり福井大会実行委員会」へ移管し、緑と花の県民運動を一層推進していく。	□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
		■ 継続	□ 休止	□ 完了	
		□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

みどりと花の県民運動大会開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	■ 政推枠 ビジョン〔 元気な県政 〕 政　策〔 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に〕					事業区分	□ 国庫 ■ 県単 □ その他	■ 実行予算 □ 補助金 ■ その他	事業開始年度	H22 年度 経過年数 8 年	事業終了予定年度 H31 年度
関連する県の計画等	〔 ふくいの森林・林業基本計画 〕										

［事業目的］

みどりと花の県民運動大会にあわせて全国花のまちづくり福井大会を開催し、花にあふれる福井の魅力を全国に発信するとともに、全国の優れた活動事例や来場者参加型のイベント実施により、県内市町での花のまちづくりに対する機運のさらなる向上を図る。

［事業内容］

〇みどりと花の県民運動大会の開催　　６月第１日曜日の「森づくりの日」に県民参加型のイベントを開催し、緑や花にあふれるふるさとづくりや県産材を広く利用するための木づかい運動の推進を図る

〇全国花のまちづくり福井大会の開催　　花にあふれる福井の魅力を全国に発信、および、全国の優れた活動事例や来場者参加型のイベント実施により、花のまちづくりに対する機運のさらなる向上を図る。【H29.6.3(土)～4(日)】

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移	4,070	4,070	3,898	6,904	21,200	6,535	6,535	H29 全国花のまちづくり大会開催による増
２月現計予算額の推移	4,070	4,070	3,898	10,704				
決算額の推移	4,070	4,070	3,898					

［成果指標等の推移］

区分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	県民運動参加者数	(目標)		(50,000)	(52,000)	(54,000)	(56,000)	(58,000)	(60,000)	目標値 60,000人(H31)
		実績	49,150	51,207	52,892	54,000				
活動指標		(目標)								
		実績								

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	21,200				21,200	事業実施方法	直営、負担金
						補助率	―

事　業　評　価

事　業　名	みどりと花の県民運動大会開催事業	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

平成21年度に開催した第60回全国植樹祭を契機に展開してきた「緑と花のふるさとをつくる運動」「元気な森をつくる運動」「自然を知り伝える運動」を一過性のものとして終わらせることなく、永続的な運動として展開していくため、緑と花の講習会やイベントを行うとともに、花や花木の植栽を通した美しい景観を形成する運動を支援する。

［受益者］	［想定される受益者数］
緑と花の県民運動参加者	６万人

他県の状況	過去の植樹祭開催県の植樹祭後の状況 【山口県(H24開催)】 ・地区毎に森林づくりの日を中心に森林に関するイベントを実施 ・森林・林業の職場体験など後継者育成を促進 【鳥取県(H25開催)】 ・「鳥取県植樹祭」を毎年開催 ・東北支援として森の里親プロジェクトでコナラを育成 【新潟県(H26開催)】 ・「緑の百年物語フェスティバル」を県緑推が開催 ・地域の育樹・植樹活動を支援	前事業の有無・実績	■ 無 □ 有　　事業名 （実績）
関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有　　事業名 （役割分担）	市町との連携状況	市町や地元、プラントピア等と協力し、開催

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価			
みどりと花の県民運動大会を全国花のまちづくり福井大会のプレイベントとして体験ブース等を拡充し、開催した。 （Ｈ２８見込み） 県民運動参加者数：54,000人	全国花のまちづくり福井大会を開催し、花にあふれる福井の魅力を全国に発信するとともに、全国の優れた活動事例や来場者参加型のイベント実施により、県内市町での花のまちづくりに対する機運のさらなる向上を図る。	□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
		■ 継続	□ 休止	□ 完了	
		□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

素敵なガーデニングサポート事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	□ 政推枠 ビジョン〔 元気な県政 〕 政　策〔 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に〔 〕					事業区分	□ 国庫 ■ 県単 □ その他	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H22 年度 経過年数 8 年	事業終了予定年度 H30 年度
関連する県の計画等	〔 ふくいの森林・林業基本計画 〕										

［事業目的］

緑や花で地域や家庭を彩る実践活動を広げるため、疑問や悩み等に対応する相談体制を強化し、花の利用やガーデニング知識および技術の向上を図る。

［事業内容］

○園芸専門家による講習会の開催
○自治会や公民館などの地域団体が行う花や緑に関する講習会に、アドバイザーを派遣

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移	2,320	2,320	1,341	1,341	865	1,341		講習会回数の見直しによる減
２月現計予算額の推移	2,320	2,320	1,341	1,341				
決算額の推移	2,320	2,320	1,341					

［成果指標等の推移］

区分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	県民運動参加者数	（目標）		(50,000)	(52,000)	(54,000)	(56,000)	(58,000)	(60,000)	目標値 60,000人(H31)
		実績	49,150	51,207	52,892	54,000				
活動指標	アドバイザー派遣数	（目標）	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)		
		実績	27	30	18	18				

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	865				865	事業実施方法	直営
						補助率	－

事　業　評　価

事業名	素敵なガーデニングサポート事業	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

平成21年度に開催した第60回全国植樹祭を契機に展開してきた「緑と花のふるさとをつくる運動」「元気な森をつくる運動」「自然を知り伝える運動」を一過性のものとして終わらせることなく、永続的な運動として展開していくため、緑と花の講習会やイベントを行うとともに、花や花木の植栽を通した美しい景観を形成する運動を支援する。

［受益者］	［想定される受益者数］
緑と花の県民運動参加者	６万人

他県の状況	【富山県】 ・花や緑に関するイベントや花壇コンクールを実施 【石川県】 ・ふるさとづくりの一環として花壇コンクールを実施	前事業の有無・実績	■ 無 □ 有　　事業名 （実績）
関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有　　事業名 （役割分担）	市町との連携状況	講習会やアドバイザー派遣について、市町とともに事業の周知を図っている。

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価			
園芸講習会の開催や、アドバイザー派遣を実施することで、ガーデニングの知識及び技術の向上を図るとともに、県民運動の機運を高めることができた。 （Ｈ２８見込み） アドバイザー派遣：18回	講習会やアドバイザーの派遣などを通して、県民が緑や花にふれる機会の提供し、緑と花の県民運動への参加を促していく。 なお、講習会回数の見直しにより476千円減額する。	□ 拡充	■ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
		□ 継続	□ 休止	□ 完了	△ 476
		□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

花いっぱい運動推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	□ 政推枠 ビジョン 〔 元気な県政 〕 政　策 〔 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に〔 〕					事業区分	□ 国庫 ■ 県単 □ その他	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H22 年度 経過年数 8 年	事業終了予定年度 H30 年度
関連する県の計画等	〔 ふくいの森林・林業基本計画 〕										

［事業目的］

緑と花の県民運動として、緑や花の講習会を行うとともに、花や花木の植栽を通した美しい景観を形成する運動を支援する。
また、平成30年度の国体に向け、国体会場へのアクセス道に花や花木を植栽することなど、来県者を出迎える美しい景観づくりを推進する。

［事業内容］

〇花いっぱい運動の推進
①花の風景づくり
・国体会場等へのアクセス道路沿いに花木・多年草を植栽
・観光地を中心とした花の拠点づくり
・木製プランターカバー製作を通じ花の修景を向上
②地域での花づくり
・国体・大会をテーマとした花壇コンクールの開催
・小中学校での花のスクールステイ
・国体候補花など、花の種を希望者に貸出し
・推進員による地域での花づくり活動を支援

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移	10,401	7,984	11,071	18,536	22,359	25,456		国体に向けた事業拡大による増
２月現計予算額の推移	10,401	7,984	11,071	18,536				
決算額の推移	10,396	7,981	11,071					

［成果指標等の推移］

区分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	県民運動参加者数	（目標）		(50,000)	(52,000)	(54,000)	(56,000)	(58,000)	(60,000)	目標値 60,000人(H31)
		実績	49,150	51,207	52,892	54,000				
活動指標	花の回廊実施市町数	（目標）				(17)	(17)	(17)		目標値 17市町(H30)
		実績				17				

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	22,359			(繰入金) 500	21,859	事業実施方法	直営
						補助率	―

事　業　評　価

<table>
<tr><td>事　　業　　名</td><td colspan="2">花いっぱい運動推進事業</td><td>部局名</td><td>農林水産部</td><td>課名</td><td>森づくり課</td><td>課長名</td><td>牧野　康哉</td></tr>
<tr><td colspan="9">［事業の必要性・要求の背景］

平成21年度に開催した第60回全国植樹祭を契機に展開してきた「緑と花のふるさとをつくる運動」「元気な森をつくる運動」「自然を知り伝える運動」を一過性のものとして終わらせることなく、永続的な運動として展開していくため、緑と花の講習会やイベントを行うとともに、花や花木の植栽を通した美しい景観を形成する運動を支援する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">［受益者］
緑と花の県民運動参加者</td><td colspan="6">［想定される受益者数］
６万人</td></tr>
<tr><td>他県の状況</td><td colspan="2">【富山県】
・花や緑に関するイベントや花壇コンクールを実施

【石川県】
・ふるさとづくりの一環として花壇コンクールを実施</td><td>前事業の有無・実績</td><td colspan="5">■ 無
□ 有　　　事業名
（実績）</td></tr>
<tr><td>関連事業の有無・役割分担</td><td colspan="2">■ 無
□ 有　　　事業名
（役割分担）</td><td>市町との連携状況</td><td colspan="5">市町が地元とともに行う花の植栽に対する支援や、小中学校での花の育成など、市町と協働して花いっぱい運動を推進していく。</td></tr>
<tr><td colspan="9">［事業の評価］</td></tr>
<tr><td colspan="2">前年度の実績</td><td colspan="2">実績を踏まえた２９年度の変更点</td><td colspan="5">事業評価</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">花木・多年草の植栽を７市町で実施したほか、県下全域で花づくり活動を推進した。
（Ｈ２８見込み）
県民運動参加者数：54,000人
花の回廊実施市町数：17市町</td><td colspan="2" rowspan="3">木製プランターカバーの製作支援、国体・大会をテーマとした花壇コンクールを行うなど、国体や北陸新幹線敦賀開業に向け、県下全域で花いっぱいの美しい景観づくりに取り組む。</td><td>■ 拡充</td><td>□ 縮減</td><td>□ 終期の見直し</td><td colspan="2">見直し額</td></tr>
<tr><td>□ 継続</td><td>□ 休止</td><td>□ 完了</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>□ 整理統合</td><td>□ 廃止</td><td>□ その他</td></tr>
</table>

ふくいＳａｔｏｙａｍａトレイル推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	■ 政推枠 ビジョン〔 元気な産業 〕 政　策〔 豊かな環境、すぐれた景観を次の世代に 〕					事業区分	■ 国庫 □ 県単 □ その他	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H27 年度 経過年数 3 年	事業終了予定年度 H31 年度
関連する県の計画等	〔 ふくいの森林・林業基本計画 〕										

［事業目的］

福井の里山やその周辺の名所・旧跡や美しい自然景観を巡るトレイルコースを設定・周知し、交流人口を増加させることにより中山間地域の振興を図る。

［事業内容］

○スマートフォン用アプリの保守管理およびアプリへのトレイルコースの追加
　①事業主体　県
　②事業内容　スマートフォン用アプリの保守管理（長期継続契約）
　　　　　　　アプリへのトレイルコースの追加（４件）

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移			8,669	4,397	592	246	246	周知イベントおよびトレイルを拡大する市町等への支援の終了による減
２月現計予算額の推移			8,669	3,297				
決算額の推移			8,008					

［成果指標等の推移］

区分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	トレイルコース利用者数	(目標)			(1,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(20,000)	設定したトレイルコース等の利用者
		実績			1,012	12,000				
活動指標	支援するイベント数	(目標)				(8)				トレイルイベントへの支援はH28のみ
		実績				6				

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	592	296			296	事業実施方法	直営
						補助率	－

事　業　評　価

事　　業　　名	ふくいＳａｔｏｙａｍａトレイル	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

県内外からの誘客による中山間地域の振興につなげるために、平成２７年度に県内３箇所のトレイルコースを設定し、マップの配布やスマートフォン用アプリの配信を行っている。
平成２８年度、新たに開催するトレイルイベント等に支援しており、新たに開催されたイベント等のトレイルコースについて、スマートフォン用アプリへの追加を行う。

トレイルコース利用者	［想定される受益者数］ １万人

他県の状況	［富山県］［石川県］ 同様の事業無し	前事業の有無・実績	■ 無 □ 有　　　事業名 （実績）
関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有　　　事業名 （役割分担）	市町との連携状況	平成28年度事業として、トレイルイベントを新たに実施・拡大する市町や地域活動団体に対し支援を実施。 また、県が作成したトレイルイベントの開催マニュアルを市町に提供し、市町と協働で中山間地域の振興を図る。

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価			
設定したトレイルコースを活用した周知イベントの開催やイベントを開催する市町や地域活動団体等に対する支援を行った。 （Ｈ２８） わかさ三方五湖トレイル（９月２５日）　参加者　２４０名 支援するトレイルイベント数　６イベント	平成２８年度に開催されたトレイルイベントコースをスマートフォン用アプリに追加し、配信することで、中山間地域へのさらなる誘客を図る。 周知イベントおよび新規イベント等に対する支援の終了により今年度予算は3,805千円の減額となる。	□ 拡充	■ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
		□ 継続	□ 休止	□ 完了	△ 3,805
		□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

総合グリーンセンター緑と花の拠点施設機能強化事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	□ 政推枠 ビジョン 〔 〕 政　策 〔 〕					事業区分	□ 国庫 ■ 県単 □ その他	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H26 年度 経過年数 4 年	事業終了予定年度 H29 年度
関連する県の計画等	〔 ふくいの森林・林業基本計画 〕										

［事業目的］

緑と花の県民運動の輪を全県下に展開していく中心的施設として、相談・体験学習や展示機能の充実を図り、総合グリーンセンターの機能を強化する。

［事業内容］

○花に関する相談・体験学習等の充実（花の専門家設置、花づくり講座の実施、体験学習施設の充実）

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移		95,909	3,805	1,480	971			フラワーゾーン整備の終了による減
２月現計予算額の推移		49,298	3,805	1,480				
決算額の推移		49,298	3,805					

［成果指標等の推移］

区分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	県民運動参加者数	（目標）		(50,000)	(52,000)	(54,000)	(56,000)	(58,000)	(60,000)	目標値 60,000人(H31)
		実績	49,150	51,207	52,892	54,000				
活動指標	花づくり講座実施回数	（目標）		(24)	(17)	(17)	(17)			
		実績		24	17	19				

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		
予算額	971				971	事業主体	県
						事業実施方法	直営
						補助率	－

事　業　評　価

事　業　名	総合グリーンセンター緑と花の拠点施設機能強化事業	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

花づくり活動の輪を全県下に展開していく中心的施設として、総合グリーンセンターの機能強化を図るため、花に関する相談の実施や花づくり講座の実施、展示温室の充実を図る。

［受益者］	［想定される受益者数］
緑と花の県民運動参加者	６万人

他県の状況	【富山県】 ・（公財）花と緑の銀行が指定管理者として富山県中央植物園を運営 ・花や緑化コンクール入賞者の作品展示やボランティアによる植物ガイドなどを実施 【京都府)】 ・府立植物園で、ガーデニングコンテストや寄せ植え講習会など各種講座を実施	前事業の有無・実績	■ 無 □ 有　　　事業名 （実績）
関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有　　　事業名 （役割分担）	市町との連携状況	花の相談所や花づくり講座の開催について、市町とともに事業の周知を図っている。

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２８年度の変更点	事業評価			
花の専門家の設置や地域リーダーの育成、花づくり講座の開催を通じて、花づくり活動の普及が図られている。 （Ｈ２８見込み） 県民運動参加者数：54,000人 花づくり講座実施：19回	花の相談所や花づくり講座の開催、リニューアルした展示温室での年間を等した花の展示を通じて、花づくり活動を全県下に展開していく。 なお、フラワーゾーン整備の終了により今年度予算は509千円の減額となる。	□ 拡充	■ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
		□ 継続	□ 休止	□ 完了	△ 509
		□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

林業ビジネスの拠点整備（総合グリーンセンター機能強化事業）

区分	新規	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

福井ふるさと元気宣言における位置付け	■ 政推枠 ビジョン〔　元気な産業　〕 政　策〔「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ〕	事業区分	■ 国庫 □ 県単 □ その他	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H29　年度 経過年数 1　年	事業終了予定年度	H29　年度
関連する県の計画等	〔　ふくいの森林・林業基本計画　〕							

［事業目的］

森林・林業・木材産業のビジネス拠点として、総合グリーンセンターの機能を強化し、技術研修を充実させるとともに、林産物の流通販売と林業ビジネスの拡大を図る。

［事業内容］

総合グリーンセンター内の林業研修館等を改修し、人材育成や林産物販売促進の拠点として活用

・木材の生産者から建築士・工務店まで川上から川下に至る技術習得のための研修を実施
・きのこや山菜などの生産者向けの研修を実施
・ライフスタイルに応じた「県産材住宅」やリフォームの提案を行う相談窓口の設置

（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移								H29当初要求 170,500千円 ⇒H28.2補正前倒し（地方創生拠点整備交付金を活用）
２月現計予算額の推移				170,500				
決算額の推移								

［成果指標等の推移］

区分		２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	（目標）								本事業は、施設整備を進める事業であり目標の設定は困難
	実績								
活動指標	（目標）								本事業は、施設整備を進める事業であり目標の設定は困難 なお、H29年度は施設整備を行うため、研修の充実等はH30年度からとなる。
	実績								

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県
予算額	170,500	85,250	85,000		250	事業実施方法	直営
						補助率	―

事　業　評　価

事　　業　　名	林業ビジネスの拠点整備（総合グリーンセンター機能強化事業）	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

総合グリーンセンターを、林業や木材産業のビジネスの拠点とするため、研修の充実による人材の養成や、流通販売にかかる活動を支援する。そのための施設として、センター研修館等のリニューアルを実施し、林家や企業の所得向上につなげていく。

［受益者］	［想定される受益者数］
県内の林業従事者	

他県の状況		前事業の有無・実績	■ 無 □ 有　　事業名 （実績）
関連事業の有無・役割分担	□ 無 ■ 有　　事業名　山の恵み活用ビジネスモデル事業 （役割分担） 改修後の研修館に、きのこや山菜などの林産物生産者に対する相談窓口を開設し、人材を育成	市町との連携状況	なし

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価			見直し額
総合グリーンセンターにおける研修の実施日数　140講座	ビジネスの拠点として活用するため、研修館等を改修	□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	
		□ 継続	□ 休止	□ 完了	
		□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

山の恵み活用ビジネスモデル事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	■ 政推枠　ビジョン　〔　元気な産業　〕 政　策　〔「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ〕					事業区分	■ 国庫 □ 県単 □ その他	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	Ｈ29　年度 経過年数 1　年	事業終了予定年度　H31　年度
関連する県の計画等	〔　ふくいの森林・林業基本計画　〕										

［事業目的］

中山間地域の活性化を図るため、山菜やきのこ等の地域資源を活用し、インターネットによる全国販売等を通じて高収益を上げるビジネスモデルを構築する。

［事業内容］

１　山の恵み生産支援
　①事業主体　　生産団体
　②事業内容　　合意形成、現地調査、発生環境整備
　③補助率　　　定額（上限１０万円）
２　山の恵み活用ビジネスモデル構築支援
　①事業主体　　民間団体
　②事業内容　　インターネット等で有利販売するモデルの構築
　③補助率　　　定額、１／２
３　山の恵み活用サポート窓口の設置
　①事業主体　　県
　②事業内容　　山菜生産者等の相談対応やアドバイザー派遣

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移					1,950	300	300	
２月現計予算額の推移								
決算額の推移								

［成果指標等の推移］

区分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	特用林産物生産額(億円)	(目標)			(5.7)	(6.3)	(6.9)	(7.5)	(8.0)	目標値　8億円 (H31)
		実績			5.8	6.3				
活動指標	ビジネスモデルの構築	(目標)					(1)			
		実績								

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		
要求額	1,950	975			975	事業主体	県、生産団体、民間団体
						事業実施方法	直営、補助
						補助率	定額、１／２

事 業 評 価

事　業　名	山の恵み活用ビジネスモデル事業	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

県内の山菜やきのこ等の特用林産物については、生産者の高齢化や景気低迷による需要減等により、生産量は減少傾向にあり後継者も不足している。
しかしながら、特用林産物は地域の観光資源や特産物として、中山間地域の収入源の一つである。
このため、きのこ類や山菜の地域資源を活用したインターネット販売を通じ、高収益を上げるビジネスモデルの構築および実証を行い、県内へ波及させることで特用林産物の生産量を拡大し、中山間地域の活性化を図る。

［受益者］	［想定される受益者数］
特用林産物生産者等	特用林産物生産者　１００名

他県の状況	［富山県］［石川県］ 同様の事業無し	前事業の有無・実績	■ 無 □ 有　事業名 （実績）
関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有　事業名　林業ビジネスの拠点整備（総合グリーンセンター機能強化事業） （役割分担） 山の恵み活用サポート窓口を総合グリーンセンターに開設し、人材育成の拠点として、センターの機能を強化	市町との連携状況	なし

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価			
		□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
		□ 継続	□ 休止	□ 完了	
		□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

ふるさと特用林産物再生事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	■ 政推枠 ビジョン 〔　元気な産業　〕 政　策 〔「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ〕					事業区分	□ 国　庫 ■ 県　単 □ その他	■ 実行予算 ■ 補助金 □ そ の 他	事業開始年度	H27 年度 経過年数 3 年	事業終了予定年度 H29 年度
関連する県の計画等	〔　ふくいの森林・林業基本計画　〕										

［事業目的］

ジャンボしいたけ、お茶炭、くず、オウレンなど、地域ならではの新たな品目の生産拡大や全国に誇れる品目の生産振興より、特用林産物の再生を図る。
併せて、林業遺産に認定された品目に対して、貴重な生産技術を次世代に継承していくための資源量調査等を行う。

［事業内容］

〇地域ならではの新たな品目や全国に誇れる品目等の振興
・特用林産物の生産、技術習得、新商品開発、商品のＰＲ等の支援
①事業主体　　特用林産物生産者等
②補助率　　　１／２
③支援品目　　８品目（平成２９年度）
〇林業遺産認定品目の振興
・林業遺産認定品目の原材料の資源量調査の実施
①事業主体　　県
②支援品目　　熊川くず、研磨炭（ニホンアブラギリ）

［予算額の推移等］　（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移			7,000	7,000	8,866			林業遺産認定品目の資源量調査実施による増
２月現計予算額の推移			7,000	7,000				
決算額の推移			6,808					

［成果指標等の推移］

区分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	特用林産物生産額(億円)	(目標)			(5.7)	(6.3)	(6.9)	(7.5)	(8)	目標値　8億円（H31）
		実績			5.8	6.3				
活動指標	支援品目数	(目標)			(10)	(8)	(8)			Ｈ２９の支援見込み　８品目 （香福茸（ジャンボしいたけ）、コウゾ・ガンピ・ミツマタ、お茶炭、熊川くず、研磨炭、オウレン、ウルシ、クマザサ）
		実績			8	7				

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県、特用林産物生産者等
予算額	8,866				8,866	事業実施方法	直営、補助
						補助率	１／２

事　業　評　価

事　　　業　　　名	ふるさと特用林産物再生事業	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

県内のしいたけや木炭などの特用林産物については、生産者の高齢化や景気低迷による需要減等により、生産量は減少傾向にあり、後継者も不足している。
しかしながら、特用林産物は地域の観光資源や特産物として中山間地域の収入源の一つである。
このため、地域ならではの新たな品目等について、生産拡大や販路開拓等に対する支援を行い、特用林産物の振興を通じた地域の活性化を図る。
また、林業遺産の認定を受けた品目については、本県が全国に誇る貴重な生産技術を確実に次世代に継承するため、資源量調査を実施する。

［受益者］	［想定される受益者数］
特用林産物生産者等	特用林産物生産団体　８団体

他県の状況	【富山県】 タケノコ生産等技術研修の実施 【石川県】 原木しいたけのブランド化および流通改善に対する補助の実施 企業的経営研修会の開催等に対する補助の実施	前事業の有無・実績	□ 無 ■ 有　　事業名　　いきいき里山特産品育成事業 （実績） 特用林産物の生産量 越前オウレン　200kg（H20）　→　918kg（H26） くず　　6kg（H23）　→　30kg（H26）
関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有　　事業名 （役割分担）	市町との連携状況	なし

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価						
７品目に対して支援を行い、特用林産物の振興を図った。 （Ｈ２８見込み） 支援品目：７品目 熊川くず、和紙原料（コウゾ、ガンピ、ミツマタ）、お茶炭（菊炭）、香福茸（ジャンボしいたけ）、研磨炭、越前オウレン、ウルシ	林業遺産の認定を受けた品目について、貴重な生産技術を確実に次世代に継承していくための資源量調査を実施する。	■	拡充	□	縮減	□	終期の見直し	見直し額
		□	継続	□	休止	□	完了	
		□	整理統合	□	廃止	□	その他	

鳥獣害のない里づくり推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	□ 政推枠 ビジョン〔 元気な産業 〕 政　策〔「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ〕					事業区分	■ 国庫 □ 県単 □ その他	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	H26 年度 経過年数 4 年	事業終了予定年度　H33 年度
関連する県の計画等	〔 ふくいの森林・林業基本計画 〕										

［事業目的］

森林組合によるシカ捕獲活動を支援するとともに、県内モデル地区における先進的手法によるシカ捕獲を推進する。

［事業内容］

○森林組合によるシカ捕獲活動への支援
・捕獲技術力の向上のための研修費および捕獲活動にかかる労務費等への支援

○先進的手法によるシカ捕獲活動への支援
・森林内での効率的・効果的な捕獲を推進するため、モバイルカリングやＩＣＴを活用した囲いワナなど、先進的手法によるシカ捕獲活動への支援

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移		9,000	13,500	20,140	13,000	13,000	13,000	
２月現計予算額の推移		9,000	13,500	15,458				資材購入費の見直しによる減
決算額の推移		9,000	13,500					

［成果指標等の推移］

区分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	シカ捕獲頭数	（目標）			(25)	(350)	(445)	(445)	(445)	森林組合による捕獲活動＝50頭 モデル事業による捕獲＝300頭
		実績			45	92				
活動指標	事業実施組合数	（目標）		(7)	(11)	(11)	(11)	(11)	(11)	県内全組合（11組合）の実施
		実績		7	11	11				

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	森林組合・有害鳥獣対策協議会
予算額	13,000	13,000				事業実施方法	補助
						補助率	１０／１０

事　業　評　価

事　　業　　名	鳥獣害のない里づくり推進事業	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

　シカの生息数の急激な増加に伴い、森林内の下層植生の消失による土砂流出の危険性が増大していることから、県では年間9,600頭の捕獲を目標にシカの頭数管理を実施している。
　また、平成26年度から森林組合も業務の一環として捕獲活動に携わることにより、災害の未然防止に寄与している。
　しかし、依然としてシカによる森林の立木被害や食害による下層植生の消失が続いていることから、モデル地域において先進的手法によるシカ捕獲を実施する。

［受益者］	［想定される受益者数］
森林所有者	約７万人

他県の状況	【富山県】【石川県】 　同様の事業なし	前事業の有無・実績	□ 無 ■ 有　　事業名　　鳥獣害のない里づくり推進事業 （実績） （Ｈ２８見込み） 事業実施森林組合数＝１１組合 狩猟免許取得者数＝７名 シカ等の捕獲頭数＝９２頭（12月末現在） モバイルカリング=２か所 ＩＣＴを活用した囲いわな＝１か所
関連事業の有無・役割分担	□ 無 ■ 有　　事業名　　鳥獣害のない里づくり推進事業（地域農業課） 　地域農業課では農地周辺での有害鳥獣害の捕獲を行い、当事業では森林内におけるシカ捕獲を行っていく。	市町との連携状況	市町および市町有害鳥獣対策協議会との連携によりシカ捕獲を推進する。

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価
県内すべての森林組合で、組合職員の狩猟免許取得やシカの捕獲を推進した。 （Ｈ２８見込み） 事業実施森林組合数＝１１組合 狩猟免許取得者数＝７名 シカ等の捕獲頭数＝９２頭（12月末現在） モバイルカリング=２か所 ＩＣＴを活用した囲いわな＝１か所	シカの食害等による立木被害や下層植生の衰退を防ぐには、これまで以上にシカの生息数を減少させることが重要である。 　先進的手法（モバイルカリングやＩＣＴを活用した囲いわななど）でのシカ捕獲を嶺南および丹南地域で実施し、シカの捕獲を推進する。 　資材の整備終了のため、今年度予算は7,140千円減額となる。	□ 拡充　■ 縮減　□ 終期の見直し □ 継続　□ 休止　□ 完了 □ 整理統合　□ 廃止　□ その他 見直し額：△ 7,140

美しい森林景観再生事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉
福井ふるさと元気宣言における位置付け	□ 政推枠　ビジョン　〔　〕 政　策　〔　〕					事業区分	□ 国庫 ■ 県単 □ その他	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	H19　年度 経過年数 11　年	事業終了予定年度 H33　年度
関連する県の計画等	〔　ふくいの森林・林業基本計画　〕										

［事業目的］

自然災害や松くい虫被害等により機能が低下している森林（山ぎわ）の機能回復を図るため、花木などの広葉樹等を植栽し、本県の美しい森林景観を再生する。

［事業内容］

〇景勝地等を中心に、花木などの広葉樹等の植栽および景観を阻害する不用木の除去
- 広葉樹の植栽（植栽樹種：抵抗性マツ、ツバキ、サクラ、モミジなど）
- 支柱や防護柵などの設置
- 不要木等の除去

事業主体　　市町（県９/１０、市町１/１０）
実施面積　　１００ha

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移	20,250	20,250	16,396	18,651	18,650	18,650	18,650	
２月現計予算額の推移	20,250	20,250	16,396	18,651				
決算額の推移	20,250	20,243	16,392					

［成果指標等の推移］

区分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	森林景観再生区域面積（ha）	（目標）	(80)	(90)	(80)	(100)	(100)	(100)	(100)	
		実績	95	87	92	102				
活動指標	森林景観再生区域数	（目標）	(15)	(12)	(15)	(15)	(15)	(15)	(15)	
		実績	17	18	13	15				

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		
予算額	18,650				18,650	事業主体	市町
						事業実施方法	補助
						補助率	９／１０

事　業　評　価

事　　業　　名	美しい森林景観再生事業	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

本県は県土に占める森林の割合が高く、地域景観は概ね森林で構成されているが、近年、松くい虫被害や自然災害による枯損木等により、森林の機能低下や地域景観が著しく悪化している。
自己の責に帰さない森林病害虫等により森林被害が発生し地域景観が悪化、森林所有者の自助努力での復旧は期待できず、地域景観を回復するためには、県・市町の対策が必要であり、観光地周辺、主要道路沿いを中心に美しい森林景観の再生を目指す。

［受益者］	［想定される受益者数］
森林所有者	約７万人

他県の状況	【富山県】 松くい虫やカシノナガキクイムシによる被害木を景観のため伐採。 樹木の植栽は行わない。 【石川県】【岐阜県】【滋賀県】 同様の事業なし	前事業の有無・実績	■ 無 □ 有　　事業名 （実績）
関連事業の有無・役割分担	□ 無 ■ 有　　事業名　松くい虫等被害総合対策事業 （役割分担） マツノザイセンチュウにより、当年度に枯死および枯死に瀕した被害木の伐倒および薬剤散布、くん蒸等を実施する。 環境に配慮した松くい虫被害対策が必要な松林において林内整備や被害木の除去等を行う。	市町との連携状況	市町は１／１０補助であるが、５年間管理をすることにより県と協働して事業を実施する。

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価			
景勝地を中心に、花木等の植栽による景観の再生が図られた。 （Ｈ２８見込み） 森林景観再生区域数：１５ 森林景観再生区域面積：１０２ｈａ	広葉樹の植栽面積見直しによる縮減	□ 拡充	■ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
		□ 継続	□ 休止	□ 完了	△ 1
		□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

森林の安全点検・診断事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

福井ふるさと元気宣言における位置付け	□ 政推枠　ビジョン　〔　〕 政　策　〔　〕	事業区分	□ 国庫 ■ 県単 □ その他	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H29　年度 経過年数 1　年	事業終了予定年度　H33　年度
関連する県の計画等	〔　ふくいの森林・林業基本計画　〕						

［事業目的］

落石のおそれが高い箇所の安全点検・診断および事前の応急対策工を実施し、落石被害の未然防止を図る。

［事業内容］

○落石による被害を未然防止するため、安全点検・診断および事前の応急対策工を行う。
・目視又はドローン等を使用した安全点検・診断等
・浮石や転石の除石、バリケードの設置等 事前の応急対策工

○実施面積
・４４ha

［予算額の推移等］

（単位：千円）

区　分	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	主な増減理由
当初予算額の推移					10,000	10,000	10,000	
２月現計予算額の推移								
決算額の推移								

［成果指標等の推移］

区　分			２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	目標・指標の考え方・積算根拠
成果指標	整備率（％）	（目標）					(20)	(40)	(60)	（実施済み整備面積（ha）／全体計画整備面積221ha）×100
		実績								
活動指標	安全点検・診断、応急対策工（ha）	（目標）					(44)	(44)	(45)	全体計画整備面積221箇所
		実績								

［財源内訳・事業主体等］

区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		
予算額	10,000				10,000	事業主体	県
						事業実施方法	直営
						補助率	―

事　業　評　価

事　　業　　名	森林の安全点検・診断事業	部局名	農林水産部	課名	森づくり課	課長名	牧野　康哉

［事業の必要性・要求の背景］

近年の豪雨や暴風により山腹斜面が侵食され、地形が変異することにより落石被害が発生している。このため、勾配の急な斜面など落石のおそれが高い箇所において、安全点検・診断および事前の応急対策工事を実施し、落石被害の未然防止を図る。

［受益者］	［想定される受益者数］
落石の危険性がある山腹下部周辺の住民	約５，０００人

他県の状況	【富山県】【石川県】　同様の事業なし	前事業の有無・実績	■ 無 □ 有　　事業名 （実績）
関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有　　事業名 （役割分担）	市町との連携状況	なし

［事業の評価］

前年度の実績	実績を踏まえた２９年度の変更点	事業評価			
		□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
		□ 継続	□ 休止	□ 完了	
		□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	